

令和3年度 地域運動部活動推進事業（休日の段階的な地域移行） 成果報告書

拠点校	登別市立幌別中学校（生徒数 145 名：教員数 14 名）
部活動名 部員数	女子バレーボール部（1 年生 3 名・2 年生 5 名）
運営団体	登別市バレーボール協会
本事業実施 の経緯	<p>＜本事業を取り組むことに至った背景・理由＞</p> <p>生徒数や教員数の減少に伴い、市内中学校において、生徒が希望するスポーツ活動を行うことができない状況が進展している。中学校部活動は、地域のスポーツ振興という点においても、重要な役割を担ってきたところであることから、令和5年度以降の休日部活動の段階的な地域移行に向けて、いち早く登別市におけるカタチを見出すため、先行的に事業を実施することとした。</p> <p>事業実施にあたり、市内における部活動の状況等を確認し、令和2年度から部活動指導員を配置している当該部活動を対象部活動として、「地域スポーツのあり方検討委員会」の中で、実施方法等を検討した。登別市バレーボール協会には、同実践研究の意義を理解していただき、協力を得ることができた。</p>
本事業での 活動実績	<p>＜教員の勤務時間の変容＞</p> <p>41 時間 45 分の時間外在校等時間の削減</p> <p>※令和3年度において、本事業を実施しなかった場合に想定される時間。なお、本事業の事務局員として兼職兼業で休日部活動に従事。</p> <p>＜地域スポーツの年間活動時間＞</p> <p>14 回実施・38 時間 15 分</p>
関係団体と の体制構築	<p>＜実際の体制＞</p> <p>地域スポーツの課題解決に向けて、市内のスポーツ関係団体等と共に「地域スポーツのあり方検討委員会」を設置していたことから、同委員会を検討・運営会議と位置付けて、市教育委員会が事務局となって実施した。地域運動部活動を実施する団体としては、登別市バレーボール協会を選定し、同協会の会員3名を休日部活動指導員として実施した。</p> <p>＜体制構築する上での課題・対応方法等＞</p> <p>登別市バレーボール協会の運営補助等を行う事務局員として、兼職兼業の手続きをした拠点校教員を配置することで、実践研究を可能とするとともに、事務の洗い出し、振り分けを行った。</p>

<p>効果的に促進する支援体制</p>	<p>＜活動を支援するために必要なこと＞</p> <p>これまで、教員のボランティアに頼ってしまっていた中学校部活動を地域移行することにより生じる費用については、財政支援が必要と強く考える。また、地域の特性に応じた部活動を構築するにあたって、画一的なものではなく、柔軟な支援が必要と考える。</p> <p>なお、地域の実情に応じたさまざまなケースが考えられるものの、国が具体性を持った一定の方向性を示すことで、地方自治体における取組の推進につながるものと考えている。</p>
<p>課題の克服方法等</p>	<p>＜実践してみて分かった課題＞</p> <p>本市において、受け皿団体として、市内の競技団体を想定しているが、高齢化や人口減少が進んでいる中、団体規模の縮小もあり、受け皿団体の確保が困難な状況にある。</p> <p>また、学校の働き方改革と部活動改革の両立を図るためには、地域移行と並行して、合理的で効率的な部活動の推進にも取り組むことが重要である。</p> <p>＜それらの克服方法・方向性＞</p> <p>保護者や生徒、学校関係者、スポーツ関係団体などと共に、将来の中学校部活動への危機感を共有し、同じ方向を向いて取組を進めることが肝要である。そのためにも、できるだけ早く方向性を見だし、さまざまな手法を用いた周知活動に努めていく。</p>
<p>他地域への普及方法</p>	<p>＜普及するために必要なこと＞</p> <p>複数の実践研究などを参考とし、地域特性に応じた部活動の在り方を探る必要があることから、各自治体における取組が重要であるが、加えて、これまでの部活動では立ち行かなくなることを、より多くの保護者等へ具体的に示すことが第一と考える。</p>
<p>その他</p>	<p>＜次年度以降の実施に向けて必要なこと＞</p> <p>休日の部活動の地域移行を段階的に実施していくためには、移行している部活動としていない部活動との公平性を担保する必要があるため、継続した財政支援を講じていただきたい。</p> 